平成 29 年 3 月 5 日発行　毎月 1 回 5 日発行　オイスカ通巻 643 号　昭和 42 年 12 月 27 日　第三種郵便物認可　別紙

公益財団法人
オイスカ FURUSATO！3 月号

～オイスカ四国のふるさとづくり～

新研修生入所～これからどうぞよろしくお願いします～

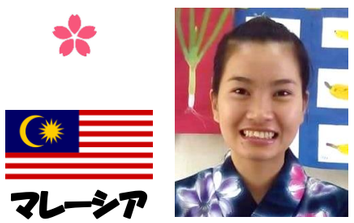
今年も6か国8名の研修生が入所します。農業指導、食品加工指導、家政、地域開発の4つのコースに別れ、自国のリーダーとして必要な技術・知識そしてリーダーシップについて学びます。2か月間は、日本で必要となる日本語と規律訓練の研修を行い、その後は農業、調理、食品加工等を実習と講義から習得。多岐にわたる分野を学び、帰国後自分達の地域に適したプロジェクトを計画し、実際に行います。研修期間を有効に過ごすためスタッフも自分達が持っている力全てを研修生にぶつけていきます！

今年の研修生とともに今年のオイスカを盛り上げていきましょう。（吉田）

ミャンマー

パプアニューギニア

モンゴル


マレーシア

フィジー

フィリピン

入所式延期のお知らせ

先月のFURUSATO2月号でお知らせしていた入所式の日程が変更となりました。

新研修生

農業指導　1名（パプアニューギニア）
食品加工指導　1名（フィリピン）
家政　1名（マレーシア）
地域開発　5名（フィジー、モンゴル、ミャンマー、フィリピン）

3月11日(土)
14：00～

参加は無料です。

参加ご希望の方は3月5日（日）までに
オイスカ四国研修センター
TEL 087-876-3333
までご連絡ください。

坂出国際交流

2月9日、坂出市国際交流協会主催の「国際理解講座」で、職員のガディが母国マレーシアのお菓子の作り方を教えました。お菓子は2種類。日本のぜんざいの様な「ブブルチャチャ」と、揚げ菓子「クイリダ」です。参加者はガディの説明を聞きながら手際よくお菓子を作り、試食の時にはみんな「おいしい」と満面の笑み。最後にマレーシアの紹介を行いました。マレーシアを身近に感じてもらい、ガディも楽しい時間を過ごすことができました。（吉田）

生地はよ～くこねてくださいね！

みそ作り体験

2月19日、高松市にある「さぬき母めしカフェ」で行われた味噌作りのイベントに参加しました。さぬき母めしカフェでは、地元の有機野菜を使った体に優しい料理を作っています。センターの野菜や卵も使ってもらっています。

イベントでは、参加した人が作りやすく、そして持ち帰りやすく準備がされていました。使った材料も良いものばかりだし、先生の説明も分かりやすくてスムーズでした。味噌作りは毎年センターでもやりますが、センター以外では作った事はなかったので、今回は他の人の作り方や教え方も勉強になりました。日本の味噌は、野菜、肉や魚の味付け、スープ、そしてお菓子にも使えます。保存食で体にも良い、とても大切な調味料だと思います。研修生は、はじめは苦手な人が多いですが、おいしい味噌を作って食べてもらい、元気になってほしいと思います。また、今後も外部のイベントに参加して新しい知識を身につけていきたいです。（ガディ）

講演会のお知らせ

綾川町男女共同参画会議主催の講演会に、所長の萬代とスタッフのガディ（マレーシア）が出演することとなりました。「アジアの女性」をテーマに、日本・アジア両方の文化を知る職員が、日頃感じている女性の役割について発表を行います。普段当たり前だと思っていることが実は海外では驚きのことだったり…新しい発見もあるかもしれません。当日はマレーシアのお菓子も味わっていただく予定です。たくさんのご来場お待ちしております。

日時：**3月5日(日)**午前10時～11時半
会場：国保総合保健施設「えがお」
お問合せ：綾川町住民生活課　087-876-1114

3 月のイベント予定

月日	曜日	イベント名	主催・協力	場所
2 日	木	四国支部常任幹事会	四国支部	四国支部
5 日	日	綾川町男女共同参画講演会（講師：萬代所長、ガディ職員）	綾川町男女共同参画会議	国保総合保健施設「えがお」
8 日	水	オイスカヤングリーダーズ定例会	オイスカヤングリーダーズ	四国研修センター
11 日	土	新研修生入所式	四国研修センター	四国研修センター
23 日	木	オイスカチャリティゴルフコンペ	オイスカ四国支部	高松カントリークラブ

「FURUSATO！」3 月号　発行
公益財団法人オイスカ四国研修センター
〒761-2103　香川県綾歌郡綾川町陶 5179-1
TEL　087-876-3333　FAX　087-876-3334
E-mail; oiscastc@oisca.org

OISCA × VALUE BOOKS
古本で！
「子供の森」計画サポートプロジェクト

海外報告

ガディ（マレーシア）＆リッチー（フィリピン）

ガディ

1月にマレーシアへ一時帰国したとき、オイスカテノム研修センター（マレーシア・サバ州、以下テノムセンター）にも行き、先生、先輩そして後輩たちにも会ってきました。

テノムセンターでは、１９７９年から２０１１年まで１３８９人が研修をし、その中の２４０人ぐらいが日本で研修をしました。日本で研修をした先輩たちは、政府関係の仕事をしたり、日本語の通訳、自分の村でプロジェクトをしている方もいます。テノムセンターのスタッフも、半分ぐらいは四国研修センターの研修生だった方です。ＫＰＤ（サバ州政府の農村開発公社、オイスカと協約を結びテノムセンターの活動をサポートしている）で働いている方もいます。日本で研修した研修生はセンターに戻り、日本で勉強したことを新しい研修生に伝えてその後はＫＰＤで働く研修生が多いです。去年四国センターで研修したグレンダ（家政）とスタンリー(地域開発)も、今テノムセンターで日本語を教えて先生達を手伝いながら、日本で研修した事を伝えています。私は日本でスタッフとして働き、テノムセンターの先生や後輩たちともよく連絡を取るようになって、日本で研修した人の役割を強く感じるようになりました。日本での研修がより良くなるようさらに頑張っていきます。

四国センターで研修した
テノムセンタースタッフ

後列左端・デビット先生（2003年～2005年のOB)家畜担当
前列右から２番目・ノルハニ先生（2001年生活改善）食品加工担当
前列左端・リア（2008年生活改善）キノコ栽培担当
前列左から３番目・ラティアム先生（1991年農業研修）キッチン担当

リッチー

わたしも1月にフィリピンへ一時帰国しました。そのときは台風ばかりでほとんど外に出ることができませんでしたが、家族や友人とゆっくり過ごすことができました。

わたしがフィリピンで働くオイスカバゴ研修センター（以下バゴセンター）にも帰って報告をしてきました。バゴセンターは、養蚕のプロジェクトをとても大きく行っています。そのほかにも農業研修や「子供の森」計画などいろいろな活動をしています。静岡にあるオイスカ高校からは毎年学生が研修にやってきます。センターで交流をしたり、マングローブ植林やホームステイに行ったりもします。日本からフィリピンへ英語の勉強のために来る人も多いですが、バゴセンターでは他ではできない経験もできます。また、センターの近くには、日本風温泉もあります。それを作るときは、日本の造園の先生がフィリピン人の作業員に教えました。わたしはその通訳をしましたが、専門のことや細かいまで通訳するのが本当に大変だったことがとても思い出に残っています。

来年はバゴセンターができて30周年です。昨年から各国でアニバーサリーが始まり、今年からは日本でも各センターが50周年を迎えます。皆様、ぜひ各地のオイスカへいらしてください。お待ちしています！

生糸の機織りの様子

日本風露天風呂：今も時々センターの皆で入りに行きます。

渡辺所長もとても元気です。今年も大阪マラソン走るかな？？

東日本大震災復興 海岸林再生プロジェクト 報告会 in 四国

オイスカ東京本部・啓発普及部の浅野です。

1月26日（木）に高松、27日（金）に徳島、28日（土）に四国研修センターで海岸林再生プロジェクトの報告会をさせていただきました。報告会では、元日本経済新聞論説委員の小林氏と私でそれぞれ、外側から見たプロジェクトと内側から見たプロジェクトということで報告しました。

小林氏にはプロジェクトの立ち上げ、その当時から関わっている方々、現状と課題についてお話しいただきました。私はボランティアについてと支援の広がりについてお伝えしました。参加してくださった方々は、みな真剣に聞いてくださり、報告会終了後も「ボランティアには行けないけど寄附だけなら…」と言いながらご寄附くださった方や「ブログに書いてもいいですか?」という問い合わせもいただきました。もちろん現地の活動あってのことですが、こうして全国で報告会をさせていただくたびに、様々なボランティアの力を感じます。また地方の方たちとの交流でオイスカに関わっていただいている声を直接聞くことができ、私も勉強させて頂きました。プロジェクト開始から6年目を迎え一層の協働が必要となってくる中、今後も少しずつでもプロジェクトを広め、震災を忘れないでいてくれる人が増えてくれることを願います。

四国滞在中、「津田の松原」と「琴弾公園」を見学しました。公園の中の松林ということで中に遊具があったり、池があったりと私たちのプロジェクト現場とは違う所も多くありましたが、参考になることもありました。来訪者が自ら松葉かきができるようにする工夫は、将来、名取の植栽現場でも取り入れられたら…と感じました。

ボランティアは３月開始！
毎月第３土曜日です

四国ＮＧＯ-ＪＩＣＡラウンドテーブル

四国ＮＧＯとＪＩＣＡ四国の関係者が一堂に会してＮＧＯ-ＪＩＣＡラウンドテーブルが年２回、四国４県持ち回りで定期的に開催されています。今年は第一回目が去る２月４日、愛媛県国際交流センターにおいて開催され、「開発教育・国際理解教育の取り組み」をテーマに活発な意見が交わされました。ＪＩＣＡから東京を中心とする首都圏においてのＪＩＣＡの認知度を調査した結果、僅か４％という数値報告があり、改めて国民の国際理解に対する意識の低さを認識することとなりました。こうした実情に対してこれまで以上にＮＧＯ独自による積極的なＰＲ活動はもとより、ＪＩＣＡとも密に連携を図りながら国際協力への理解発信、特に中高校生など青少年を対象とした教育機関への積極的な働きかけを行っていくことを再確認し閉会しました。（萬代）